

平成 30 年度光産業技術標準化国際シンポジウム

平成 30 年度の光産業技術標準化国際シンポジウムは、「レーザポインタの安全・安心」をテーマに、公益財団法人 JKA のサポートを受けて、国際シンポジウムとして、欧米のレーザ安全の権威を迎え、平成 31 年 1 月 15 日（火）、六本木アカデミーヒルズにて、約 40 名の参加者の下、開催された。



会場風景

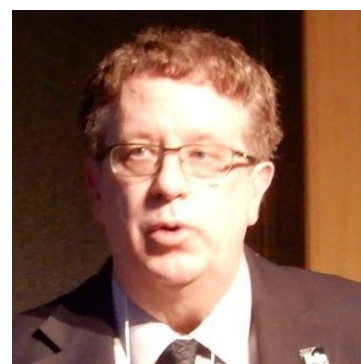
まず、開会挨拶において、当協会副理事長兼専務理事の小谷泰久より、前回の標準化国際シンポジウムの開催が、国際規格 IEC および日本工業規格 JIS のレーザ安全の基本規格が改正された 2014 年度であったことを説明し、この改正にもかかわらず、レーザポインタを中心とする携帯型レーザ装置の事故が続いていることから、本年度のシンポジウムでは、レーザポインタの安全・安心に焦点を当て、講演者として、米国から Patrick Murphy 氏 (LaserPointerSafety.com 編集者)、欧州から Martin Lindgren 博士 (スウェーデン放射安全局)、また、日本からは、大学から橋新裕一教授 (近畿大学教授)、産業界から瀧淳智氏 (日亜化学工業 (株)) を招聘したことを紹介した。



小谷 泰久 副理事長兼専務理事



橋新 裕一 教授



Patrick Murphy 氏

最初の講演者である近畿大学の橋新教授には、「日本のレーザポインタの安全・安心—現状と課題—」と題して、日本のレーザポインタの事故例およびそれによって網膜に生じる障害について解説いただいた。また、レーザポインタの安全性に関する日本の法制度と諸外国の法制度とをわかりやすく比較していただいた。

た。日本はWEB経由で違法レーザーポインタを入手できるという大きな問題点を抱えているが、少なくとも国内での販売においては罰則適用を強化する動きがあることが紹介された。

続く講演者の米国Patrick Murphy氏からは、「レーザーポインタの危険性とその軽減策」と題して、講演いただいた。Murphy氏は、レーザーポインタの安全性に関する包括的なWEBサイトLaserPointerSafety.comの編集者として著名であり、また、SAEおよびANSIにおいてレーザー安全委員会委員として活躍されている。Murphy氏からは、SAEおよびANSIにおいておこなった、特に航空機の安全性に関する提言を紹介いただくとともに、LaserPointerSafety.comが安全なレーザーポインタの使用を促進するためのニュース・教育資料などを提供していることを紹介していただいた。



Martin Lindgren 博士



濱 敦智 氏

続く講演者のスウェーデン放射安全局のMartin Lindgren博士からは、「携帯用レーザー機器に関する法規制—スウェーデンにおけるレーザーポインタ法規制の経験—」と題して、講演いただいた。Lindgren博士は、スウェーデンにおいて行われている携帯用レーザー応用装置のライセンス制度というユニークな法制度導入の立役者であり、そのねらいおよび現状について紹介いただいた。

最後の講演者の日亜化学工業（株）濱 敦智氏からは、「高出力レーザーダイオードの履歴管理（流出防止対策）」と題して、講演いただいた。濱氏は、日亜化学におけるレーザーダイオード事業の企画を担当されており、レーザーダイオードの開発およびその高出力化の歴史と現在の応用分野について紹介いただいた。そして、レーザーダイオードの高出力化とともに目的外用途への流出が違法レーザーポインタ製造に用いられていることが大きな問題点となっており、日亜化学が行っている流出防止対策について紹介いただいた。

